

ルワンダ月報（2022年2月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

1. 内政・外政

- 1日、カガメ大統領がンサビマナ (Dr. Ernest Nsabimana) 氏を新インフラ大臣に任命。同氏の前職はルワンダ公共事業規制機関（RURA）局長。ガテテ（Mr. Claver Gatete）前インフラ大臣はニューヨーク国連代表部大使に任命された。
- 3日、カガメ大統領がナイロビでケニヤッタ・ケニア大統領と面談。貿易や運輸交通等の各種分野における協力について協議したほか、エチオピア、スーダン、南スーダン、ソマリアにおける紛争解決に向け、ルワンダ・ケニア両国が対話や平和の促進のための牽引役として協調することを確認した。
- 4日、カガメ大統領がアフリカ連合開発庁-アフリカ開発のための新パートナーシップ計画調整庁（AUDA-NEPAD）議長に再選。
- 4日、ルワンダ・バイオメディカルセンター（RBC）の所長職を「責任問題（questions of responsibility）」のために停職処分となっていたサビン（Dr. Sabin Nsanzimana）氏が、ブタレ大学病院センター所長に任命。同氏はルワンダにおけるコロナ対策の中心人物で、停職処分は各方面で驚きをもって受け止められていた。
- 5日、国連の平和維持のための戦略的パートナーシップ事務所（OPSP）一行がルワンダ国家警察（RNP）を訪問。平和維持ミッション派遣前の警察官への訓練等を視察。
- 7日、ザンビア警察（ZPS）がスタディーツアーのためルワンダ国家警察（RNP）を訪問。
- 8日、カガメ大統領が、新たに任命された大臣（インフラ大臣及び国務大臣）の宣誓式において近隣諸国との外政について発言。ブルンジとは関係改善が順調に進んでおり、様々なレベルで両国間の協議が進展していると述べた。ガトゥナ国境が再開したウガンダについては、在ウガンダ・ルワンダ人に対するスパイ扱いや、反政権派のルワンダ人を擁護している状況が改善しない場合、国境再開も辞さないと言明。他に、コンゴ（民）（二国間関係は20年以上進展が見られない）、中央アフリカ共和国（ルワンダは国連PKOとは別に二国間関係の枠組みでも派兵、平和の存在しない同国において、平和を作り出す活動を二国間枠組みで実施）、モザンビーク（カーボデルガード地方の完全な平和を確保するために派兵を継続）についても発言した。
- 10日、カガメ大統領が、ルワンダ訪問中のニュシ・モザンビーク大統領と面談。カーボデルガード地方における両国の協力やその他分野の二国間連携について協議した。
- 14日、カガメ大統領がドーハでシェイク・タミーム・ビン・ハマド・アール・サーニ首長と面談。二国間関係及び協力について協議。
- 14日、ビルタ外相が赤十字国際委員会（ICRC）のスッター (Mr. Christoph Sutter) 地域代表と面談、信任状写しを受領。

- 15日、ルワンダ国家警察（RNP）が中央アフリカ共和国国家警察と警察及び治安事案における越境連携に関する協力協定に署名。ルワンダ訪問中の中央アフリカ共和国国家警察長官は、16日、ルワマガナ郡の警察学校の視察も行った。
- 16日、カガメ大統領がドイツでビオンテック社を訪問。サヒン同社社長、サル・セネガル大統領、アドゥ・ガーナ大統領、テドロスWHO事務局長らとの協議に参加。同社は、コンテナ・ソリューションをベースとした mRNA ワクチン製造施設の開発及び提供を検討中で、AUと緊密に協力し、ルワンダ、セネガル、可能性として南アフリカと言った国々にワクチン輸送することを想定している。（The New Times）
- 17日、カガメ大統領が、ベルギーで2日間にわたり開催される第6回EU-AU首脳会議に参加。同会議と並行し、ビルタ外相はウィルメス（Ms. Sophie Wilmes）副首相兼外相と面談し、ルセサバギナ氏（当館注：「ホテル・ルワンダ」のモデルとなった人物で、武装組織FLN関係者とともにルワンダ国内における襲撃事件に関与したとして有罪判決を受けている）の審理、コロナ対策、アフリカにおける紛争等、両国にとって共通の関心事項について協議した。
- 18日、ルワンダ武装集団FLNに手榴弾や食料等の物資を提供しようとしていたブルンジ人3名がブルンジ北西部チビトケ県で逮捕。
- 19日、カガメ大統領が第58回ミュンヘン安全保障会議に参加するためドイツに到着。同日、オープン・ソサイエティー財団のソロス副理事長（Mr. Alexander Soros）、シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール＝サーニー・カタール外相との面談も行った。
- 22日、カガメ大統領がセネガルのダカールに到着、アブドゥライエ・ワデ・オリンピックスタジアムの開所式に参加。
- 23日、カガメ大統領がモーリタニア訪問。防衛及び治安、ICT及びデジタル化、鉱物、農業、投資促進等の分野における二国間の協力可能性について協議予定。
- 25日、ウギラシェブジャ司法大臣がルワンダ訪問中のバンヤンキナボナ・ブルンジ司法大臣と面談。二国間関係や近隣諸国間の司法分野における協力について意見交換を行った。ウギラシェブジャ大臣は、両国の司法システムをより強固で効果的なものとするために取り組むべきことは多く、司法分野での協力を可能とする法的枠組みの確立、特に犯罪人引渡し協定と刑事事件の相互法的支援に関する協定が必要とし、ルワンダがブルンジ側に提示した引渡し協定の草案にもとづき、早期に新たな署名にこぎ着けたい旨述べた。
- 25日、カガメ大統領が、金融大手クレディ・スイスの元CEOでルワンダ金融社（Rwanda Finance Limited）の理事長を務めるティアム（Mr. Tidjane Thiam）氏及びキガリ国際金融センター（KIFC）CEOと面談し、KIFCの進捗状況について協議。同大統領はまた、国際電気通信連合（ITU）のボグダン・マーティン（Ms. Doreen Bogdan-Martin）通信開発局局長とも面談し、今年6月にキガリで開催される世界電気通信開発会議（WTDC）につい協議した。
- 26日、カガメ大統領が、コンゴのキンシャサで開催された各国首脳会合後にアントニ

オ・アンゴラ（Mr. Tete Antonio）外相と面談、二国間及び近隣諸国関係に関するロウレンソ大統領からのメッセージを受け取った。首脳会合は、2013年に各国が合意したコンゴ（民）及び大湖地域のための平和枠組みについて評価するためのもの。

2. 開発協力

- 3日、FAOが、EUの支援により、ルワンダ大学、ルワンダ農業庁（RAB）等とルワンダの農業システムの気候に対応した持続的な変容を促進するプロジェクトを開始。家畜及び作物システムの多様化、灌漑地域の効果的管理、干ばつの起こりやすい地域における作物集約化及び多様化を実施する。
- 18日、ンダギジマナ財務・経済計画大臣、ウワマリヤ教育大臣、駐ルワンダ仏大使、フランス開発庁（AFD）所長が、ルワンダにおけるフランス語教育強化のためのAFDによる500万ユーロの支援に合意。AFDはまた、ルワンダ開発銀行（BRD）と、2,000万ユーロの長期貸し付け及び50万ユーロの無償に合意した。長期貸付け（13年間）は、同銀行による開発目標に資する貸し付け業務促進、無償は同銀行の強化を目的とした技術支援が目的。
- 18日、USAIDが1,480万米ドル相当の農業輸出プログラムを開始。ルワンダの包摂的かつ持続的な経済成長のため、コーヒー、茶、園芸、スパイス、乳製品、皮革製品等の高価値な農業輸出品の増加により、3億ドルの投資を呼び込こむことを目的とする。

3. 経済

- 3日、世界銀行がルワンダ経済アップデート（REU）を発表（2日）。ルワンダの経済成長率は2021年に推定10%まで上昇した後、2022-2023年は平均7.5%になると予想。コロナの影響を受けて上昇した失業率への対応、財政赤字・対外債務の増加について要注視であるほか、ルワンダが2035年までに高中所得国になるという目標を達成するためには輸出の拡大が必要であり、地域の物流ハブとしての機能の強化、EAC及びコンゴ（民）とのさらなる地域統合及び貿易円滑化が鍵であるとした。
- 7日、ンダギジマナ財務・経済計画大臣が6,336億ルワンダ・フラン（約6億2,500万米ドル）の補正予算案を国会に提出。コロナ対策のほか、教育、保健、ICT、農業等の分野に充てられる。
- 11日、貿易・産業省が、国境貿易組合に900台のスマートフォンを供与。国境貿易を行う業者に対し、キャッシュレス精算や、他国のデジタルサービスへのアクセスを可能にするため。
- 18日、ルワンダがアフリカ初となるコーヒー及び茶のエキスポを今年7月12-14日にキガリ・コンベンションセンターで開催することを発表。
- 26日、ルワンダが2月26日-3月6日にパリで開催される国際農業見本市に初参加。茶、コーヒー、園芸品等の農産物を輸出する中小企業15社及び企業10社が自社製品を展示するほか、新規輸入元の開拓を行う。

以上